

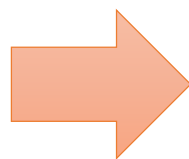
データ消去機能付き スマートフォン

作成例1

学校名	〇〇県立〇〇高等学校
チーム名	×××
代表者	□□ △△
共同執筆者1	
共同執筆者2	
共同執筆者3	
共同執筆者4	

特徴

- 悪者にスマートフォンを盗まれたときに、大事なデータの流出を防ぐためのデータ消去機能が付いている



動機・目的

- スマートフォンの高機能化によって、あらゆる情報を携帯端末で扱うことが増えてきている
- ビジネスでもプライベートでも、他人に見られると困る情報がスマートフォンに保存されている
- 完全に安全な暗号化は事実上不可能
- 所有者の元から無くなったスマートフォンからは、データへのアクセスを不可能な状態にしたい



サービス・機能

- 登録されていないユーザが勝手に使おうとすると、ストレージ故障装置によって**全てのデータが消失**する
- 手動で遠隔地からの消去も可能
- データが消えるだけでなく、**悪者を懲らしめる**ことが出来るように、
 - 警察に顔や現在位置を**通報**
 - カラーボールのように**ペンキ**が炸裂などのオプションを選択できる



利用シーン

- 日常的に
- ビジネスに
- 政治取引に



- 通常のスマートフォンと
なんら変わりなく使えます

原理・仕組み

- 画像処理による**顔認証**や**声紋・指紋認証**による本人確認の他、使い方のクセ(タップ速度や押力、話し方など)を登録しておく
- 紛失判断用ドングルを用い、**一定距離以上離れたら動作する**ことも可能
- 過電流などによってストレージに**不可逆的な損傷**を与えることでデータを消去する



原理・仕組み(続き)

- 紛失判断用ドングルは通常SIMやSDのように本体に格納しておき、必要に応じて取り出して身に付けて利用する
- ドングルを持って、本体から離れると、音と振動で正規ユーザに通知。盗難だけでなく忘れ物対策にもなる



- ドングルをどこかに置き忘れてたりした場合は、本人確認ができればデータ消去は行わない

類似のアイデアとの相違

- 暗号化によるデータの保護では、例えば脅されてパスワードを漏らしてしまうなどの危険性が残る
- 自己破壊機能を搭載したHDDやUSBフラッシュメモリはあるが、本人確認によるトリガーは難しい
- ユーザが亡くなった後、自動でデータを消去してくれるクラウドサービスが話題になったことがあるが、それこそ他人に渡したくないデータは手元のほうが安心である

参考: [遺言ソフト—死後の世界](https://freesoft-100.com/review/shigonosekai.html)

<https://freesoft-100.com/review/shigonosekai.html>

社会への影響

- 盗んだスマートフォンによって自動的に警察へ通報されるかも知れない恐怖は**犯罪抑止力を高める**といえる
- 誤作動によるデータ消失の危険性から、**バックアップの習慣が付く**ようになる



自由記述